

下野市立細谷小学校

1 学校課題

自ら学び、考え、表現できる児童の育成
～多様な一人一人に寄り添う指導の工夫・改善～

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

昨年度まで、児童の主体性を伸ばしながら、確かな学力の定着・向上を目指し、思いを表現できるよう研究を進めてきた。特に分かる楽しさを味わえる授業づくりの工夫をすることに重点を置き、自ら学ぼうとする意欲を高め、考えて表現する力を向上させた。学年末の学力調査の結果を見ると、自分の思いや考え・解き方の説明などの力が付いてきた一方で、文章を正しく読み取る力、複数の情報を関連付けて答える力が十分に身に付いておらず、児童の基礎・基本の定着につなげる指導は十分とは言えない。また、日頃の授業の様子からは、少人数ならではの個別最適な学びの実現に向けて、教師の支援のあり方等の更なる研究が必要であることも分かってきた。

そこで、本年度も昨年度までの研究を継続させつつ、児童の主体性を伸ばしながら、既習事項を活用し、自らの考えや思いを適切に表現できる児童の育成に努めたい。そのためには、分かる楽しさを味わえる授業や実態に応じた授業の更なる工夫改善に加え、知識・技能の定着が図れる支援の工夫が必要であると考え。その中で、少人数ならではの個別最適な学びの実現に向けても研究し、どのような手立てをすることが有効であるか、明らかにしていきたい。

(2) 研究の仮説

一人一人の特性に応じて少人数学級のよさを活かした支援の仕方を模索し、分かる楽しさを味わえる授業の工夫をすることで、基礎的な知識・技能が定着し、自ら学ぼうとする意欲が高まり、考え、表現する力を伸ばすことができるであろう。

3 研究内容

(1) 分かる楽しさを味わえる授業づくり

- ・課題提示の工夫
(関心意欲を高める、必要感や有用感がある、協力して課題を解決する等)
- ・本時のめあての示し方、ねらいに即した振り返りのさせ方の工夫
- ・児童の思いに沿った単元計画・学習計画の工夫
- ・基礎・基本の定着を図る工夫
- ◎つぶやきを大切にし、意見をつなぐ教師のコーディネート力の向上
- ・タブレットなどのICTの活用(タイピング力の育成★)
- ・国語科を中心としたS&Uコラボ事業による授業研究会



(2) 一人一人に寄り添う指導の工夫

- ・話し方、聞き方、話合いの仕方の提示と活用
- ・キーワード、条件、文字数等を意識した作文指導
- ・「書くこと」の習慣化(まとめ、振り返りの時間の確保)
- ・教科の特性に合わせた(算数、理科、社会等)考えやまとめの書き方の習得
- ・学習形態の工夫(学級の実態に応じた児童が安心して学習できる場の設定)
- ・ぐんぐんタイムの計画的実施
- ◎学力差に応じた個別最適な学びの実現

(3) 学びに向かう集団づくり

- ◎学びに向かう姿勢を養う
 - ①思いや気付きを口にする(つぶやき)
 - ②互いに高め合うことができる
 - ③学習に自信がもてる
- ・学習規律の確立
- ・家庭学習の習慣化(家庭との連携)
- ・授業とつながりのある自主学習(自主学習の内容の検討、効果的なメニューの提示)

（2）研究授業を通じた主題への取組

| 月日 | 学年 | 単元名 | 課題追究のための手立て等 |
|-------|----|--|--|
| 9/24 | 2年 | 国語 「読んで考えたことを話そう『どうぶつ園のじゅうい』」  | <p>①ICTの効果的な活用 授業の導入で動物の写真や獣医が仕事をしている動画を見せた。教科書を読むだけでは分からないことや児童の経験からだけではイメージしにくい部分などについて理解できるようにした。本時の授業の意欲付けに効果的だった。</p> <p>②対話的な学びの工夫 仕事の内容とその仕事をする理由について、教科書に線を引き、ワークシートにまとめさせた。友達と話し合いながら行うことで、友達の考えを知り、自分の考えを整理することができた。</p> <p>③考える視点の提示・問いの工夫 自分の経験と結びつけることが難しい児童のために「したこと」「されたこと」「見たこと」「聞いたこと」などの視点カードを提示したことで、自分の経験を思い出しやすくすることができた。</p> |
| 12/15 | 4年 | 国語 「理由や例を挙げて、考えを書こう『もしものときにそなえよう』」  | <p>①社会科の学習と関連 社会科の単元「自然災害からくらしを守る」で学習したことと関連させたり、図書館や市役所の方々から知らせようという相手意識をもたせたりすることで、児童が学習する目的意識をもたせることができた。</p> <p>②対話的な学びの工夫 必要に応じて対話をする相手やタイミングを児童自身が選択できるようにし、効果的に対話することができた。</p> <p>③個に応じた指導の工夫 ワークシートを数種類用意したりタブレットで作成してもよいと伝えたりするなど、学び方を児童自身が選択できるようにすることで、一人一人が活動しやすくなった。</p> |

4 本年度の成果と課題

（1）研究の成果

- ①多様な一人一人に寄り添うための手立てとして、自分の考えを引き出したりまとめたりする活動において、視点カードを準備したりまとめ方を選択させたりすると効果的であると分かった。
- ②研究授業だけでなく、単元を通しての授業公開をしたことで、職員間で話し合うことができ、授業力向上、授業改善につなげることができた。

（2）研究の課題

- ①授業の振り返りで、自分の学習理解状況が自分で確認できるような授業づくりをする。
- ②全学年共通の学習規律（話の聞き方、話し方、話合いの仕方）を確立し、安心して授業に取り組めるようにする。
- ③多様な一人一人に寄り添うための手立てとして、教師の関わり方やコーディネートの仕方を検討していく。